

# 「時に惑わされるな」「神の時を見失うな」

～千年は一日は千年～

Ⅱペテロ3:1～8

## ■ 誘惑に惑わされるな

先日、皆さんと一緒に開催した子ども向けのイベントには、「誘惑者」役がいてこの人たちは、頑張っている子どもたちに、そうさせまいと誘惑する役でした。誘惑者はいたる所で働いて、まじめに働こうとする子どもたちを悪い道へと誘惑していました。この誘惑者のことを、参加した子どもたちはよく覚えていました。このことは、私たちに同様にあります。何もない平安な環境の記憶よりもそうでない環境の方が記憶に残るのです。今日の箇所(Ⅱペテロ 3:3-4)にもある通りです。しかし、私たちはその様々な言葉に惑わされてはならない(Ⅱペテロ 3:1-4)、また、私たちが侮辱を受ける時「主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のよう(Ⅱペテロ 3:8)」であることを覚えよ、と語られています。私たちは、一時の目の前に起こる誘惑や言葉によって右往左往させられて間違った決断をしようとするのですが、聖書は違うと教えてくれているのです。目の前のものに騙されてはいけません!

## ■ 誘惑者の誘い・惑わし

誘惑者は、私たちのこと…私たちがダメにする最大のポイントをよく知っています。ですから、私たちが欲するものを目の前にポッと出してくれます。この聖書箇所が書かれた時代の社会は荒廃していました。サタンは偽キリストや偽預言者をたてて情報を操作し、何とかして人々を取り込もうとしていました。これは、今現在も起こっています。たくさんウソとあらゆる情報が私たちが支配しようとしています。そんな中で、私たちがどう行動するかが大切です。

## ■ 神の時を見失うな (パート I)

「惑わされる」のは「神の時を見失う」からです。「神の時」と言うのは、何かをやるろうとした時、うまくいかなかったり、問題が起こったりするのです。これは人によって期間が変わってきます。ダビデは約30年、ヨセフもそのくらい、モーセに至っては80歳になるまででした。アブラハムも80歳までイサクを授かるという願いが叶うまで時間がかかりました。この人たちは、マリヤの言った言葉の通り「主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょうか(ルカ 1:45)」を信じ切った人たちです。私たちはどうでしょうか。いざという時・計画していたことがうまくいかない時・今まで継続していたことが計画通り進まなかった時、「主によって語られたことは必ず実現する」と信じ切れているでしょうか。マリヤは結婚前に受胎告知を受けました。これは普通のことではなく、その時代では死刑にあたるほどのことでした。マリヤにとっても、婚約者のヨセフにとっても最悪の出来事でした。しかし二人とも御使いに「恐れるな」と語られたので、それを信じて行動し結婚したのです。そして、身重のマリヤをロバに乗せエルサレムまで何日も旅をして、宿泊する宿もない中、糞土にまみれた汚い家畜小屋で医者も誰もいない中でイエスを生みました。私たちが「最悪だ。あの時の御使いの言ったことは嘘だったのでは?」と諦めたい思いになるのではないのでしょうか。しかし、彼らは違いました。彼らは、人生最大の死を覚悟した決断を最後まで信じて乗り越えたのです。ペテロはこの手紙を書いた理由として私たちの「記憶を呼び覚ますため」「純真な心を奮い立たせるため」だと言っています。純真な心と、私たちが最初に受け取った神さまへの最初の思いは決して変わることがないので、誰もが抱いているのです。しかし、この大事な思いとは別に私たちに「じゃない」方を選んでしまうのです。私たちに、いつもこのような誘惑が起こってきます。気をつけなければいけません。こんな時、私たちが諦めてしまったら終わりなのです。もしも今うまくいっていないと感じる人は、過去の記憶をたどってみてください。必ず途中で諦めたことがあります。結果、うまくいった人は途中でうまくいかなかった時が必ずありました。でもその時諦めなかったからうまくいったのです。

## ■ 主の御声に聞き従う

ではなぜ私たちは諦めてしまうのか…それは、誘惑者に、そうするように飼育されているからです。神の言うことを聞けないように飼育されてしまっているからです。だからペテロは、私たちが最初の思いを思い出すよう・奮い立つために何度も神に従うことを伝えているのです。(1サムエ 15:22-23)と書かれています。何よりも神さまに従うことが大切です。主の御声に従うことは生費に、どんな行動や捧げものにも勝ると言われています。そして、最

後まで耐えしのぶ者は救われます。ぜひこの御言葉にたつて主の御声に聞き従っていきましょう。そうすれば、私たちの願いと思いをすべて知っておられる主が守ってください。しかし、私たちの心に恐れがあると御声に聞き従うことができなくなります。

## ■ だから神の時を見失うな (パート II)

だから、神の時を見失わないでください。神の時は私たちに分かりません。私たちが計画した通りには行きません。なぜならば、全知全能の神さまが全てのものが最善となるように完璧に計画されているからです。この主の計画をズラすのは私たちだけです。私たちが少しズラすと神さまの計画していたことの歯車が全てかみ合わなくなってしまうのです。神さまは、それを何度も愛によって全てリメイクしてくださるのです。どれだけズレても戻してください、今度はズレないようにしてください。ですから「みことば」と「主であり救い主である方の命令」を思い起こせ(Ⅱペテロ 3:2)と語られています。この命令とは「心の貧しいものは幸いであれ」と言うことです。心の貧しいというのは私たちの人生の中で、自らでは生きられない・自分には頼るべきものが神以外にはないと知り、助けてくれる神を探し求める姿のことです。このことを通して私たちは、最初の思いを思い出して奮い立つことが出来るのです。神さまは、私たちの周りに「キリストの来臨の約束はどこにあるのか」と言ってくる者が現れた時に騙されるなど教えてくれています。悪は「火に焼かれるためにとっておかれ、不敬虔な子ども達のさばきと滅びとの日まで保たれている(Ⅱペテロ 3:6-7)」とあるので、何でもだろうと思うほどの悪人が一時はうまくいきます。しかし、そんな人を通して自分の悪を見出すことが出来るので、私たちの悪を捨てる事が出来るのです。

## ■ 一日は千年、千年は一日

自分の目の前に起きている1日の不可解な出来事…これがたとえ1年経いても神さまの目で見ると、それは1日と一緒です。私たちは「こんなのが続くのですか」と不満が口に出ます。しかし神さまの目から見ると一瞬なのです。私たちはこの一瞬によって多くのことを学んでいます。相手の身になって「自分ならどうするか?」どう判断するかを、また、適切な言葉を選んで発言する重要さを学びましょう。神の目では一瞬の出来事で、私たちは人生で最善な大切なことを学び、問題は過ぎ去っていくのです。この一瞬で過ぎ去るような時にどういふ決断が出来るかが私たちに委ねられています。

## ■ 最後に…

もう一度思い起こしてください。ペテロは人生の終わりに私たちに語ってくれています。「こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい(Ⅱペテロ 1:5-7)」これが出来れば大丈夫です。言葉を発する時、自分は特別な存在で徳が備えられていることを忘れないでください。そして、次に大切なことは神の目では一瞬の中で多くの問題を通して、諦めずに信じ続けたら必ず願いは叶えられることを体験します。これが「知識」となります。最後に、私たちは神の愛によって支えられ問題を乗り越えることが出来る、成し遂げられることを知ります。3章を通して神さまは「1日が千年のようであるから、あなたは1日の出来事で近視眼になって盲目になって諦めるな」と言っています。

### 【ヘンデルを通して】

ヘンデルは「メサイア」という曲を1741年、56歳の時に作曲しました。これはイザヤ 53章を歌ったものです。この曲はヘンデルが非常に苦難(心筋梗塞やリウマチ等の病気や経済的困難等)の中で神に祈った時突然元気になり、たった3週間で書き上げられました。当時は知られなくとも、今ではみなさんご承知のとおり全世界で知られる名曲となっています。一人の人が神に立ち返り、神の声に聞き従い、神の計画を成し遂げると、その時はどんな小さなことであっても、後の時代に継承されていくのです。私たちはどうでしょうか。神の計画を無駄にしていけないでしょうか。様々な誘惑してくる言葉によって諦める人生ではなく、主の御声に聞き従い神の計画を成し遂げる者となりましょう。

(要約者:行司 佳世)

(2021年8月15日)